『比較民俗研究』27. 2012／6

韓国における伝承文化の観光資源化
—韓国・三陟市、「男根公園」—

倉石　美都※

はじめに

韓国におけるソウル一極集中は、人口のみならず政治・経済・文化等の諸機能においても際立っている。それは同時に地方の過疎化を引き起こし、様々な格差を生んでいる。それに対応するための地域おこしの活動は、経済の活性化をはじめとして様々な形で行われている。特に目立っているのが観光客を呼ぶための諸施設である。それは韓国の伝統文化を顕彰するものや、地方の歴史文化を対象としたものが多い。そうした意味では韓国の観光事業は、自国の伝承文化の再評価であり、それを最大限に活用しようとしている事業であるということもできる。

ソウル自体が五百余年に及ぶ李氏朝鮮の古都漢城であり、放火で消失した南大門[1]を始め東大門[2]や景福宮[3]、かつての両班[4]の居住地である北村[5]など、朝鮮王朝の都の面影を忍ばせる諸施設が現存し、各所にある古くからの市場も人々の日常生活を支えるとともに、明洞・仁寺洞などの繁華街と並ぶ観光地となっている。また三国時代の新羅の古都慶州や、百済の古都扶余も多くの人々が訪れる観光地となっている。そして、世界文化遺産に登録された安東の河回村や慶州の良洞邑・水原の華城・江華島の支石墓群、世界無形文化遺産に登録された江陵の端午祭などは、いうまでもなく観光客の多く訪れるところである。かつての生活を復元した南山の韓屋や水原の民俗村・順天の楽安城邑村など、伝統的な生活の姿を保存・復元した施設なども多くの観光客でにぎわっている。また、壬申倭乱の戦乱を逃れた人々が山中に村を作り、そのまま世俗との交渉を絶って自給自足の生活を行い、桃源郷とも言われた青鶴洞[6]も、今では全くの観光地となってしまっている。

こうした歴史的文化に基づいた観光地が多い中にあって、全く異なる理由によって観光地化したところもある。テレビドラマ「冬のソナタ[7]」の撮影地[8]を日本人観光客が訪れたことがきっかけになって、ドラマの撮影地が観光地化されたところも多いのである。また、いわゆる韓流ドラマには、「冬のソナタ」「春のワルツ[9]」「夏の香り[10]」「秋の童話[11]」などをはじめとするメロドラマのほかにも歴史に題材を得たものがあり、そうしたドラマの撮影地にも観光客が訪れている。テレビドラマ「宮廷女官チャングムの誓い[12]」や「太王四神記[13]」などは多くの話題を集めたこともあって、テーマパーク[14]が作られている。三国時代の歴史ドラマ「薯童謡[15]」にも描かれた「花郎[16]」は、新羅の王を守るための貴族の戦闘集団であり、そのテーマパークを訪れる

※韓国・京畿大学校専任講師

観光客も多い。「花郎」の忠誠心と戦闘能力は今でも高く評価され、韓国軍の精神的支柱の一つとして軍隊の入隊教育に取り入れられているという。したがってこうしたテーマパークが日本人の観光客のみを対象としているわけではないことはいうまでもない。テーマパークはともかくとして、テレビドラマの撮影地は当初から観光地として想定されていたところではない。しかし撮影地を訪れる観光客が多くなると、撮影地側でも日本のドラマ・ファンが訪れることを期待して、その受入れを準備しているところもみられる。

ともかく韓国の伝統的な文化に対する人々の関心が、観光地化を促す一つの原動力になっているということができる。そうした観光地のあり方とは全く異なる性格である、メロドラマの撮影地が観光地化するためには、新しい韓国文化に感動した日本人の存在があった。しかしそれが韓国の人々にも自国の文化の存在を再認識するいくばくかの機会になったのであろう事は容易に推測できる。現在でも臨戦体制化にある韓国では、国の独自性を維持し、そのアイデンティーを明確にするために、伝統的な伝承文化を特に重視する傾向ができてきている。伝統的・伝承文化の存在を重視している観光地のあり方や、歴史的なテーマパークの存在は、そうした現代の韓国のおかれた立場の中に位置づけることができよう。

ところが一見こうした観光地のあり方とは全く異なる、観光客を引き寄せるためのみに作られたとしか思われないテーマパークも存在する。済州島の「チャンスン・テーマパーク[17]」は、韓国の代表的な民俗文化の一つであるチャンスン[18]を集めたテーマパークである。しかしそこに展示されているチャンスンは、「天下大将軍」「地下女将軍」という男女が並立するチャンスンだけではなく、三世代で構成された家族のチャンスンなど、独創的なチャンスン群が展示されているのである。それらのチャンスンの共通点は、木の枝や幹の上部を削ったりして顔にしてあるだけではなく、それらにはいずれも立派な生殖器が刻まれているところにある。チャンスンこそ確かに伝承文化には違いないが、その形態は全く新たに作り出されたものということもできる。もっとも、チャンスンは、古くは男根形態であったと考えている韓国の研究者もおり[19]、そのような系譜の上に位置づけることができないわけではない。

三陟市の海神堂公園（通称「男根公園」）[20]は、チャンスンの一部に生殖器が付けられているというようなものではなく、その男根のみを展示していることを特徴とするテーマパークである。いったいなぜ男根が観光客を呼ぶためのテーマになりうるのか。チャンスンがテーマパークのテーマになりえたのが、チャンスンという伝承文化と無縁ではないと考えられるなら、「男根」もまた韓国の伝承文化と無縁の存在ではないであろう。いったい「男根公園」の「男根」は、韓国の伝承文化とどのようにかかわるのであろうか。「男根公園」の存在を通して、韓国の観光資源と伝承文化との関係を考えてみることにする。

1　三陟市「男根公園」の概要

韓国の東海岸沿いにある三陟市（三陟市遠徳邑葛南里삼척시 원덕읍 갈남리）は東海（日本海）に面しており、近くには海水浴場があり夏は多くの人でにぎわう。しかし、夏以外は三陟

を目当てに訪れる韓国人観光客は少ない。そうした東海に臨む三陟市の小高い岬の突端に海娘堂がある。この海娘堂を中心に海神堂公園がつくられたのは2002年であった。

海神堂公園の周辺は漁村で、海岸沿いには小さな漁港がいくつかある。ここに水揚げされる魚を買いに来る観光客がいないわけではない。しかし、海神堂公園は漁港からは少しはずれているので、わざわざ公園を訪れる観光客はあまりない。ただ、三陟市では観光の目玉にしようと、海沿いにサイクリングコースを作ったので、その途中で寄り道をする観光客や、観光コースに組み込まれているために訪れる観光客がいないわけではない。テレビドラマ「冬のソナタ」で人気を得たペ・ヨンジュンの映画「四月の雪[21]」が撮影されたのが三陟だったため、日本からもツアーで三陟を訪れる日本人観光客は多い。しかし、海神堂公園まで足を伸ばす日本人観光客は少ない。

海神堂公園までの交通手段として三陟市街から定期バスが走ってはいるが、三陟ターミナルから一日に15便しかなく、所要時間30分とあるが、1時間弱かかる距離であり[22]交通は便利であるとはいえない。そのためここを訪れる日本人観光客は、噂をきいてわざわざ来るか、「四月の雪」撮影地見学ツアーなどの行程の一部として来るかである。交通は不便ではあるが、公園は海を臨む高台にあるため眺めはいい。面積は23000㎡ほどあり、公園の入り口には駐車場があり、観光バスも駐車できる。また、お土産物屋や食堂も１、２軒あり、夏の海水浴シーズンには観光客も増えるので忙しいという。

この海神堂公園の特徴は、男根の彫刻が公園中にあることである。海神堂公園は男根彫刻を展示するテーマパークであり、漁村的民俗を展示すると共に性民俗･男根民俗を理解することができるとされ、通称「男根公園」と呼ばれている。もちろん男性生殖器を示す男根という言葉は、決して悪い言葉ではない。しかし、公然と口にしたりする語や内容のものでもない。むしろどちらかといえば、口にするのも恥ずかしいといった類いの言葉であろう。しかし、三陟駅前に設置された歓迎板には、「男根文化の三陟市へようこそ」と大書されている。三陟を訪れた人がまず目にするところに、あるいは目にして欲しいところに、公的な歓迎表現として「男根」という言葉が用いられているのである。しかもそれが駅前に設置されているということは、観光客を対象としたものであり、三陟市の観光施策として行われているということであろう。

しかもそれが言語表現だけにとどまらず、23000㎡に及ぶ広大な地域に、巨大な男根彫刻が林立しているのである。その中心的な役割を海娘堂が担っている理由は、それが海娘神の伝承に基づいているとされているからである。かつて海娘堂へ木製の男根を奉納する習俗があり、それは信仰に基づく行為であった。しかし、現在の海神堂公園には、信仰的雰囲気がほとんど感じられない。

2　韓国における性民俗研究の概要

観光公園が「男根」の存在を強調していることは、一見奇異に見える。しかし、木製男根を祀ったり供えたりする信仰行事は、韓国各地にあった。家の存続のために子孫を残すことは重

要な事柄であり、子宝を授かるための男根信仰が各地に存在していることは理解できる。しかし、そうした伝承のある所が、全て男根を中心にしたテーマパークを設置しているというわけではない。

韓国における男根信仰についての研究はいくつかなされており、陽石（男根石）の形態を集めたものも多い。キム・ドハ『チャンスンとボクス』はチャンスンやボクスの事例を中心に集めたものとして有名だが、その中にはいくつかの陽石も取り上げられている。また、キム・ジョンテ『韓国の性信仰』には韓国の性崇拝や民俗信仰、禁忌などがまとめられている。陽石についても多くのページを割いている。それらによると、三陟市域には陽石や男根信仰が多くみられ、男根文化が盛んな場所の一つであることが分かる。三陟市と同様に東海（日本海）に面した江陵市では、江陵地方にある陽石や性信仰などの事例を集めて、『江陵祈子信仰と崇拝の痕跡』という冊子を出している。このほか、全国各地の事例や写真資料を集めたものも多い。また、性信仰の概論や、世界各地の陽石と比較したりしているものなどもある。しかし、韓国における男根信仰を体系的にまとめているものは少ない。また、伝承事象を体系的に把握しつつ、詳細な地域比較や信仰形態や内容、あるいは民間信仰のなかにおける位置づけ·関係などについて検討を行っているものは多くはない。性的信仰の意味についても、海沿いでは豊漁祈願、内陸では子授け祈願などと認識するにとどまっている。

韓国性民俗研究史を概観すると、三陟市域が性民俗にかかわる伝承の多いところであることは指摘されている。しかしその伝承は、海神堂公園のように木製男根の彫刻が林立するようなものではなかったようである。それが観光施設としてのテーマパークによる現象であることは言うまでもない。だがそうしたテーマパークが、何もないところから突如生まれたものではなく、海娘堂に対する信仰が背景にあったことも事実である。いったい海娘神の信仰と、男根彫刻とはどのような関係にあるのだろうか。以下、その関係について考えてみることにする。

3　海娘神と海神堂公園

A. 海娘神

三陟市の男根彫刻を展示するテーマパーク「海神堂公園」の、文化的背景となっている海娘神伝説とはどのようなものであろうか。海神堂公園にある解説碑文によると以下のとおりである。

男根崇拝文化の三陟　　海神堂の伝説

昔、この村には婚礼を約束した処女エランとチョンガーのドクベが住んでいた。ある春の日、エランが村から離れた岩にわかめをとりにいくというので、ドクベが舟でエランを岩まで連れて行ってやり、ドクベは畑に行って仕事をしていた。突然、ひどい風が吹いたので海辺に行ってみると、すでに舟を出せないくらい強い風と高い波になっていた。

処女のエランは助けてくれとドクベに哀願したが、波にのまれて死んでしまった。

その後、
この海では魚がまったく獲れなくなり、海難事故がよくおきるようになった。
村の人々は今までの災難はすべて、岩にがんばってしがみついていたのに死んでしまったエランの怨恨だと考え、村の人々の知恵をしぼり、エランが死んだ東側の岩に向かって食べ物を供え、コサ（告祀）を行ったが、魚はまったく獲れず、どんどん村も漁師たちの生活も疲弊していった。
そうしたある日の夕方、一人の漁師が、
酒に酔って、魚が獲れない憂さをはらすために、海に向かって悪口をいい放尿した。すると、その次の日の朝、ほかの舟はいつものとおり、空の舟で戻ってきたのに、その漁師だけは舟いっぱいに魚を獲って帰ってきた。おかしいと思った村の人々は、その漁師にしつこくつめより、漁師が夕べの話をすると人々はみんなそろって海に向かって放尿し、漁に出ると思ったとおり大漁で帰ってきた。
その後、この村では、
それまでの災難が処女エランの恨みのためだと確信し、エランの岩が見える山にエラン神を祀って、男根を削り祭物と一緒に供えたので、結婚できなかった恨みがはれたという。
今も正月15日と10月の午の日に祭祀を行っているが、正月15日に行う祭祀は豊漁を願い、10月午の日に行う祭祀は動物（十二支神）の中でも午の男根が一番大きいため、午の日に行うのだという。
今も１km先にある岩にはエランがドクベを呼びながら死んだ岩であるが、その岩を村の人はエヴァイ岩とよんでいる。今もエランはエヴァイ岩に、ドクベは漁村の民俗館の庭に、それぞれ銅像があり、お互いに愛し合っている。
（筆者訳。原文は以下の通りである）

남근숭배 문화의 삼척[23]　　해신당의 전설
옛날 이 마을에는
장래를 약속한 처녀 애랑이와 총각 덕배가 살고 있었다. 어느 봄날 애랑이가 마을에서 떨어진 바위섬으로 미역을 따러간다 하기에 총각 덕배가 떼 배로 애랑이를 바위섬에 데려다주고 덕배는 밭에 나가 일을 하고 있었다. 갑자기 바람이 많이 불어 해변으로 나와 보니 이미 배를 뛰울 수가 없을 만큼 강한 바람과 함께 집채 같은 파도가 일기 시작했다.
처녀 애랑은 살려달라고 덕배를 부르며 애원하다가 안타깝게도 파도에 쓸려 죽고말았다.
그 후부터
이 바다에서는 고기가 전혀 잡히질 않았으며, 해난사고가 자주 발생하였다고

마을주민들은 지금까지의 재앙 모두가 바위를 붙잡고 애쓰다 죽은 애랑이의 원혼이라 생각하고 마을 사람들의 뜻을 모아 애랑이가 죽은 동쪽 바위섬을 향해 정성스레 음식을 장만하여 고사를 지냈으나 고기는 여전히 잡히지를 않고 갈수록 마들과 어부들의 생활은 점점 피폐해져 가기만 했다고 한다.

그러던 어느날 저녁 한 어부가

술에 취해 고기가 잡히지 않는데 대한 화풀이로 바다를 향해 욕설을 퍼부으며 소변을 보았다고 한다. 그런데 그 다음날 아침 다른 배들은 여전히 빈배인데 그 어부만 만선으로 돌아왔다고 한다. 이상하게 생각한 주민들은 그 어부에게 까닭을 물었고, 어부가 지난 저녁의 이야기를 들려주자 사람들은 너도나도 바다를 향해 오줌을 누고 조업을 나갔고 기대한대로 모두들 만선으로 돌아왔다.

그 후 이 마을에서는

그 동안의 재앙이 처녀 애랑이의 원한 때문이라 확실히 믿고 애 바위가 보이는 산 끝 자락에 애랑신을 모시고 남근을 깍아 제물과 함께 바쳐서 혼인을 못한 원한을 풀어주게 되었다고 한다. 지금도 정월보름과 시월의 오(午)일에 제사를 지내고 있는데, 정월보름에 지내는 제사는 풍어를 기원하는 것이고, 시월 오(午)일에 지내는 제사는 동물(12지신)중에서 말의 남근이 가장 크기 때문이며 말(午)의 날이기 때문이라고 한다.

지금도 1km앞의 저 바다에는 애랑이가 덕배를 애타게 부르다 죽었다는 바위가 있는데, 그 바위를 마을 사람들은 "애바위" 라고 부르고 있다. 지금도 애랑이는 애바위에서 덕배는 어촌민속관 앞뜰에서 동상으로 승화되어 사랑을 나누고 있다

この解説文によれば、結婚を前にして死んでしまった少女の恨みにより不漁に陥ってしまった。しかし、男性の放尿や木を削って作った男根を供えることによってまた魚が取れるようになった。それ以降その少女（エラン）を海娘神として祀り、男根を供えて少女の恨みを鎮めることになったというのである。そして今でも、三陟市の海娘神には毎年木製の男根が奉納されており、海娘堂の中には奉納された木製の男根が吊られている。それだけではなく、巨大な男根を作って奉納する「男根彫り大会」も行われ、その男根彫刻をモニュメント化して、海神堂公園全体を飾っているのである。なお、この海娘神伝承には異なる伝承が存在し、そのうちの幾つかは既に倉石あつ子が翻訳して紹介している[24]。

もちろん男根にかかわる伝承が存在するのは、三陟市域だけではない。例えば、京畿道安養市萬安区の男女結合石は、さわりながら子を授かりたいと祈れば願いが叶うといわれている。また、全羅南道新安郡長山面の岩には子供を欲しいと思っている女性が、三色のお供え物をし、

蝋燭を燈して祈ったといわれる。同じ全羅南道新安郡の黒山面では子宝ではなく豊漁を願うものとして祀っている[25]。

B. 海神堂公園

それでは、海娘神堂を中心としてつくられている観光施設の「男根公園」とは、どのようなところであろうか。以下その概要をスケッチしてみよう。

駐車場で下車すると、すぐその脇は尾根の麓で、そこに公園の入口がある。「海神堂公園」(해신당공원)と書かれたアーチ門をくぐって坂道を登り、掘割の上にかけられた橋をくぐると尾根の上にでる。そこには、3メートルもあるような男根彫刻が何本も建てられている。尾根道は海娘堂への参道であり、海に向けて設置されている双眼鏡で、海娘神になった少女が海に落ちたという岩が見られるようになっている。覗いてみるとその岩には少女の像が立っている。海娘神になったエランの像である。参道の両側に建ててある男根彫刻の胴体部には、祈る女性の姿や胎児の姿などが彫りこまれているものもある。その尾根の先端は岬であり、紺碧に光る東海(日本海)を背に、木立のなかに一宇の堂がある。海娘堂である。格子越しにみると中には色鮮やかな海娘神の像が祭られ、その脇には奉納物として藁で連ねた木製男根が吊り下げられている。

海娘堂から引き返して尾根道を登っていくと、尾根上は「男根彫り大会[26]」などで彫られた男根や、彫刻家が彫った作品などが見渡す限りに林立している。気がつけばフェンスやベンチなども男根の形をしており、男根彫刻があるだけではなく、細部にいたるまで男根公園であることを意識して作られている。また、博物館や漁師の家、男根に刻まれた十二支彫刻などが並ぶ広場もある。漁師の家は海娘神となったエランの家で、その家の前には海に向かって小便をする漁師の男たちの像が建てられている。こうして見るものは多いが、目のやり場には困ってしまう。

娘の家の前の崖下で、展示館の脇に作られた家には春画をもとにして復元した性交中の男女の人形が展示されている。未成年者は観覧禁止とされているとはいえ、特に管理する人がいるわけではなく、誰でもが自由に見ることができる。伝説の世界を復元するために、伝説の場面や性的な要素を取り上げて、海娘神伝承に基づいて漁村の生活を展示しようとしているかに見える。このような展示物などを見ると、海娘堂以外には信仰のにおいはしない。海神堂公園が信仰を背景にしてつくられたとはいえ、専ら、男根の彫刻やモニュメントを集めた公園としての性格が強く、それを強調するための役割を男根彫刻は果たしているようである。

4 観光資源化される男根

A. 公園を訪れる人々

海娘神の信仰から生まれたものとはいえ、このような男根をテーマとした公園は韓国においても数少ないであろう。男根信仰は江原道に多くみられる信仰だとはいっても、全国的にみら

れる信仰でもあるのである。しかしそれらの伝承地毎に、こうした男根をテーマとした公園が作られているわけではない。済州島にラブランド27というセックスをテーマとした公園があり、男根のモニュメントなどもあるが、男根をテーマにしているというわけではない。そうした意味では三陟市の海神堂公園は、全国的にも特異な公園であるということになろう。

公園は海娘堂を中心に造ってあるように見える。しかしそのルートに沿った展示物などを見ると、実際には海娘の復元家屋や男根十二支の像のある辺りが中心になっている。公園に来る人々も海娘神に参拝することより、男根の彫刻などのモニュメントを楽しむことを目的としているように思われる。

それでは、男根を楽しむために公園を訪れる客とは、どのような人々であろうか。調査で訪れたのは2011年2月5日であったが、この日には入場者が少なかった。それでも観光バスが3台ほど来ており、公園を見てまわっているうちに別のバスも到着したりしていたので、相応の観光客が訪れていたことになる。しかし子供はおらず、子供連れの家族も多くなかった。特に物心ついたような子供をつれている家族はほとんど見られず、わずかに「男根」が何かもわからないような幼い子供連れの家族が見られただけであった。また、若いカップルなども見られず、ほとんどが観光バスで訪れていた年配の観光客だった。ただその年配の観光客の男女比は、ほぼ同じくらいであった。

入園者は、ルートに沿って一応は海娘堂に参拝する。そして海娘堂の中をのぞき、「男根があるわね、ははは」などと照れ笑いしながら軽く頭をさげるだけで来た道を戻っていく。こうした様子を見ると、海娘堂や海娘神に強い関心を示しているとは思われない。海娘堂は海神堂公園の由来となったものであるから、見ることは見るが、海娘堂に参拝することを目的にしているという人は多くはないのである。この公園を訪れる観光客は、ほとんどが地元の人でない。そうした人々にとって海娘堂は、単に海神堂公園にある施設の一つとして認識するに過ぎないのであり、信仰の対象ではないのである。

むしろ、人々は十二支のモニュメントや、巨大なシシオドシのように上下する男根に関心を示している。そしてそこにあるモニュメントの一つ一つを細かく見たり、巨大な男根にまたがってみたり、あるいは男根の先端を撫でたり、抱きついて笑ったりしながら写真を撮ったりしている。また、復元家屋の前で男根を出して小便をしている男性のモニュメントの、男根の部分をつついてみたりして楽しんでいるのが印象的であった。言うまでもなく、これは豊漁を願って海に放尿する漁師の行為を再現したものであるが、そのような伝承に対する関心ではなく、観光客の関心は生殖器官としての男根にあることを示している。そうした大胆な行為をしているのは、大方年配の観光客で、中でも年配の女性が「いやだぁ」といいながら見学している姿が頻繁に見られた。海娘堂に参拝する時間より、男根彫刻のモニュメントなどを見ている時間のほうがよほど長く、また細かくよく見ているのである。

そうした観光客に、公園を訪れた理由を聞いてみた。ソウルに住む人たちの中には、この公園の存在を知らない人も多く、知名度が高いとはいえないからである。すると、全く予備知識

がなく、団体での観光に参加したら、その観光コースに組み入れられていたので、この公園にきたという人もいた。また、あらかじめ噂や広告で予備知識を得ており、海娘堂がある公園には男根の彫刻がたくさんあると聞いたので来てみたという人もいた。そして、海娘堂はここに伝わるものなので一応は見るものの、男根の彫刻に関心を持ち、男根彫刻の大きさやその数に驚いたという人が多かった。個人で来ている人でも、海娘堂やヘランの信仰や参拝などのために来たという人はおらず、ほとんどが男根彫刻に関心を持つ人々であった。当日この公園にいた人で、公園で働いている人を除き、私が確認した限り海娘堂に参拝するために来ていた人はいなかったのである。

もちろん、海娘堂はこの地域の名所であるから、海娘堂に参拝することを目的の一つとして来園する人もいるであろう。しかし、海神堂公園の噂が広まっているのは海娘堂の存在ではなく、男根の彫刻の存在であったようである。単に噂を聞くにとどまらず、実際に足を運んでみたのも信仰によるのではなく、面白そうなものがあるというのが理由のようであった。海娘堂やヘランの伝承は、もともと豊漁や村の平和を願う伝承であり、その祭りである正月15日や10月午の日には信仰目的で公園に来るとしても、それ以外の日には信仰目的で訪れる人が少ないのである。こうした傾向は外部からの観光客のものであるから、この地域の住民の認識はまた異なるであろう。

いずれにしても、「男根公園」を訪れる観光客のこうした様相に比べると、前述した性のテーマパークである済州島のラブランドの入場者は、ほとんどが男女のカップルや若い友達同士のグループ、あるいは若い家族連れであった。どちらも性をテーマにした公園であるのに、入場者に違いがある。その理由は男根に特化しているか、性を幅広く対象にしているかの相違であるのか。改めて考えてみる価値のある問題であろう。

B. 男根のパフォーマンス

さて、海娘堂の木製男根を奉納するという信仰をきっかけとして、男根彫刻を展示するようになった海神堂公園であるが、男根にかかわるイベントはどのように行われているのだろうか。

まず、「男根彫り大会」が開かれ、参加者が広場に集まって男根を彫っている。そうした大会は行われているが、彫り上がった男根などを担いで練り歩くようなパフォーマンスは行われてはいない。これだけ広大な敷地いっぱいに男根の彫刻を林立させていても、イベントとしては男根を彫刻する大会だけである。外部の人も積極的に参加するようなパフォーマンスは行われてはいない。そもそも巨大な男根を担いで練り歩くようなイベント自体が、韓国ではみられないのである[28]。

韓国ではかつて程ではないが、それでもどうしても息子が欲しいと願う人々は今でも多い。また、近年の女性の晩婚化の進行によって、不妊に悩む女性は多くなっている。したがって、男の子がなかなか授からない場合や不妊に悩む女性などが、男根石に祈ったりすることがある。豊漁の神様であるはずの海娘神にも、男根を奉納するゆえか、不妊に悩む女性が祈りに来るこ

とがあるという。こうした状況からすれば、男根をテーマとする公園で、男根を主体にしたパフォーマンスが行われてもおかしくないと思われる。しかしそうはなっていないのである。

日本の状況をみると、中世･近世においても祭りや行事に男根を用いるところは各地にあった。現在でも愛知県小牧市の田県神社の祭りや、川崎市の金山神社のかなまらまつりのように、男根を中核とした祭りが各地で実施されている。もちろんこれ等の祭りの全てが古くからの祭りというわけではないが、男根を主体とするパフォーマンスは伝承されていた。その伝承文化を背景としながら、生活環境や時代の変化の中で男根の祭りも実施され、性のイベント化、パフォーマンス化が進んできた。川崎の金山神社のかなまら祭りには性風俗関係の参加者も多く、またそうした人たちの力が大きいという。日本では毎日オカマ・オネエとよばれる女装癖のある人、同性愛者、あるいは性同一性障害者などがテレビなどに頻繁に登場している。そうした性向をあえて隠さず、逆に活かして活躍している人も多い。しかしそれでもなお性風俗関係者などに対する偏見は存在する。にもかかわらずこうした人々が祭りの中心になり、パフォーマンスで活躍しているのである。

ところが、韓国においては男根を中心としてイベントやパフォーマンスは見られないし、同性愛者や性同一性障害の人々、あるいは風俗関係者などはまだまだ社会的にはマイノリティーであり、隠れて暮らしている存在である。当然そうした人々が、祭りにおいてパフォーマンスを演ずることなど考えられない。三陟の男根公園や済州島のラブランドなどが存在していることでも分かるように、韓国でも男根が完全なタブーというわけではない。それでも韓国では、男根を中心にしたパフォーマンスは行われていないのである。

しかし男根を話題にすることには、比較的寛容であり、関心も強い。ノルウェーのヴェルゲン公園[29]ある「怒りんぼう」の像は、小さな裸の男の子が、じれて地団駄を踏んでいる彫刻である。その「怒りんぼう」の右手は観光客が触るので、はげて色が変わっている。韓国の人にその写真を見せると、まずは「かわいい」「珍しい」という。そしてその次には、「なぜこの手は色が違うのか」と質問をされる。「観光客が触るからだ」というと、納得はするのだがその後で、「韓国にこの像があって、こんなにたくさんの人が見に行くほど人気があったら、ぜったいに違うところの色が変わってます」と笑いながらいう。小さなかわいい男根の色が変わっているはずだというのである。その場にどのような人がいるかにもよるが、くだけた席では男根の話も決してタブーではない。しかし公の席でそのような発言をしたら、ただの常識のない人になってしまう。

ニューヨークのオフオフブロードウェイで、2000年初め頃、puppetry of the penis30というパフォーマンスが上演された。男性二人が舞台でペニスを使ったパフォーマンスをするのだが、映像も使っていろいろな形を作り、それを見せていくというものであった。こんなパフォーマンスを誰がみるのか、と思って行ってみると連日満員御礼だった。ここには信仰などは全く存在せず、ただパフォーマンスの道具として男根を使っているのである。祭りなどで男根を用いたパフォーマンスが行われる日本でも、ここまで徹底したパフォーマンス化はなされていない。

もちろん韓国では考えることもできないであろう。

韓国では男根はパフォーマンス化されてはいない。それにもかかわらず、海神堂公園では男根が観光化されている。そして、男根が観光化されると共に商品化もされている。韓国において男根がパフォーマンス化されない理由については、いろいろ考えられよう。儒教に基づく生活文化の影響もあるであろうし、社会的環境も影響しているのであろう。こうした性に関する認識は、男根にかかわるパフォーマンスやイベントのあり方にもつながっていると考えられる。韓国の仮面劇にでてくる性的な場面なども対象としつつ、韓国の性観念については今後も考えていく必要があろう。

C. 男根と土産物

海神堂公園の入り口にあるお土産物屋には、男根の形のキーホルダーや置物、蓋が男根の形になっている酒瓶など、男根の形を模したり、描いたりした様々な商品がずらりと並んでいた。しかし、あまり売れているようには見えなかった。それでも、観光バスの発車を待っている年配の女性が何人か男根形の蓋の付いた酒瓶を持っていたので、全く売れていないわけではないようである。

しかし、注目すべきことは、この公園だけでなく、別の場所でも男根の形をした商品が売られているということである。海神堂公園と同じ東海岸沿いのある有名な港にある市場に、蓋が男根形である蜂蜜を売っている店があった。そこは海神公園からそれほど遠くはないが近くもなく、また蜂蜜とも特別関係のなさそうな所であった。店頭の張り紙には、蜂蜜が体にいい、力が出ると書いてあったので、それを意味しての男根形の蓋だったのか。不思議に思って聞いてみたが、店番をしていた無口なおばあさんは、そんなものに興味をもった外国人を訝しそうに見るだけだった。また、三陟市から南西方向の内陸部に位置する安東市河回村の小さな土産物屋では、小さな木製のカメのキーホルダーを売っていた。このカメの首から上が男根の形をしており、首をもたげている。その土産物屋にあったのはこの一つだけだったが、河回村は特に男根と関連付けられているわけでもなく、なぜ突如として首の部分が男根のカメのキーホルダーが売られていたのかわからなかった。店のおばさんに尋ねても、ニヤニヤ笑いながら「これ、いいわよ」と言うだけであった。

これらの男根形のお土産物はキャラクター化されているわけではなく、リアルな形で商品化されているという特徴がある。海神堂公園の土産物の多くは、よく言えば男根の形を忠実に表現している。蓋が男根形である商品も、カメのキーホルダーも、男根の部分は特にリアルに再現されている。男根でふざけてはいけないといわんばかりである。これに対して川崎のかなまら祭りで売られている男根型の飴は、ピンクに彩色されていたり、キャラクター化されていたりしている。韓国の男根形土産物と比較すると、大きな違いである。

つまり、韓国における男根は観光資源として活用されはしていても、それを使ってパフォーマンスしたり、キャラクターを使って必要以上に騒いだりしようとはしていない。それはあく

までも、男根という物体、あるいは形態を対象に対しての観光化であり、男根にそれ以上の役割をもたせようとはしていないかのようである。

5　おわりに

以上、三陟市の海神堂公園における男根彫刻のあり方をとおして、韓国における男根に対する認識の一端を概観してみた。

韓国の東海岸一帯では、海娘神に男根を奉納する信仰がみられるが、海娘神とは関係ない内陸地でも、岩や石などを男根に見立て、信仰対象としているところが多い。そうした意味では韓国には男根に対する信仰伝承が確かに存在している。自然物を男根に見立てているところでは、同時に女陰岩などを近くに見立て、陰陽を対にしようとする傾向も見られる。海神堂公園の男根の彫刻にも、女陰と一体化したものなどもあった。

海神堂公園の男根彫刻は、こうした男根信仰と無関係ではなく、海娘堂に男根を奉納する信仰習俗から始まったものであることは疑いがない。そうした意味で海神堂公園は海神信仰と男根信仰とが基盤になっているということができよう。しかし、テーマパークとしての海神堂公園における男根彫刻は、既に海娘神の信仰とは離れて観光客を誘致するための存在となっており、観光化された存在である。しかもその観光化は、男根に神性を認識したり、祭りの形態を継承したイベントを行ったりするといったようなものではないし、観光客を巻き込むパフォーマンスが行われているわけでもない。もっともこうした男根信仰をイベント化しないのは、海神堂公園においてだけではなく、韓国においては一般的な傾向である。

結局観光化の契機となっているのは、伝承事象に対する関心であり、その伝承にかかわる聖地が存在することである。そうした伝承は当然地域の生活や文化を基盤として存在するものであるから、地域住民のよく理解しているところである。そこでその伝承が観光客の関心をよぶと思われるものを中心としながら、工夫を凝らすことになる。つまり海娘神の伝承に基づいて男根を供えるという習俗に注目し、その男根の存在を特化したということになろう。単に海娘神の伝承そのものを取り上げたのでは、他地域との差別化を計るのには弱いからである。また、男根の存在は陽石に対する数多くの伝承の存在から、十分に観光客の関心を惹き、受け容れられることを知っていたのである。

そして、伝承事象としての男根を特化するとともに、話題づくりをして世間の注目を集めるために、多くの人々の参加する「男根彫り大会」を企画した。同時に男根の巨大化を計った、ということになるだろうか。そしてそれを展示する公園を用意したのである。その公園には巨大男根を林立させると共に、エラン伝承の世界を復元し、男根のテーマパークとしたのである。こうしてテーマパークは完成したが、そこを訪れた外来の観光客は、在地伝承世界の存在より白日のもとに聳え立つ巨大男根像群に関心を奪われてしまった。エラン伝承の内容より、普段は公にできない男根が、公然と展示されている事実に圧倒されてしまったといってもよい。余りに公然と行われているので、そこには隠微なものが入り込む余地はない。

ともあれ海神堂公園の男根彫刻は、韓国における特異な存在である。そこには伝承文化の影響はほとんど見られず、ただその背景となった陽石に対する関心がほのかに見えるにとどまっているように見える。しかし、その公園に立てられた男根彫刻を仔細に検討すると、単に巨大化しただけではなく韓国の人々の男根に対する性認識を見て取ることができる。これは本稿のテーマとは異なるものであるから、ここではこれ以上触れないが、韓国の生活文化や性意識を明らかにするためには、非常に興味深い存在であるということだけは断言できる。

ただ海神堂公園の男根彫刻が、陽石信仰に基づくものであったとしても、韓国における陽石信仰の実態が明らかになっているわけではない。そこで今後その信仰実態を全国的規模で明らかにし、そこに海神堂公園の男根彫刻を位置づけける必要がある。それと共に、全国各地の陽石の観光化の様相も明らかにしなければならない。これは海神堂公園において男根が観光資源として活用されるようになった理由を明確にするために必要な作業である。もちろんそのためには、地域民俗学的視点からの研究を行う必要もある。そうしないと海神堂公園の男根彫刻の意味を正当に理解することはできないからである。もっとも、テーマパークとしての海神堂公園の開園が10年ほど前であるから、その計画·実施に携わった関係者はまだ生存しているはずである。したがって今後の聞き取り調査によって、このような点についての裏づけは当然行なわなければならないと思っている。

残された課題は多い。しかし、民俗学が現在の事象を対象としつつ、伝承事象の比較によってその変遷の過程を明らかにしようとするものであるなら、韓国の民俗学研究において、その観光化の現象は避けて通れない文化事象である。とりわけ性文化の存在は、いまだ体系化されておらず、観光化との関係も明らかではない。本稿はそうした研究のほんの出発点である。

参考文献

김종대　[한국의 성신앙 - 중부편] 인디고 2004

キム・ジョンテ『韓国の性信仰―中部編』 インディゴ 2004

비교민속학회 저　[한국의 민속과 성]　지식산업사 1997

比較民俗学会著 『韓国の民俗と性』 知識産業社 1997

강릉시 [강릉 기자신앙과 숭배의 흔적] 강릉시 공무원이 만들어 가는 지식의 샘제 12월호 江陵市 『江陵祈子信仰と崇拝の痕跡』江陵市公務員が作っていく知識の泉12月号

이종철, 김종대, 황보명 [성, 숭배와 금기의 문화] 대원사 1997

イ・ジョンチョル、キム・ジョンテ、ファン・ボミョン 『性、崇拝と禁忌の文化』 大円社 1997

倉石あつ子「韓国における男根崇拝」『長野県民俗の会通信』220号 2010年

註

[1] 正式名称は崇礼門。2008年2月放火により焼失。現在復元工事中。大韓民国の国宝第1号。ソ

ウルがあった漢城を囲む四大門のひとつ。

[2] 正式名称は興仁之門。大韓民国指定宝物第1号。南大門と同じくソウルの四大門のひとつ。

[3] 朝鮮王朝の王宮。日本帝国時には朝鮮総督府がおかれた。

[4] 朝鮮王朝時代の身分階級のひとつ。ヤンバンと読む。賤民、良民に分けられた身分階級の中で、良民の一番上に位置する。

[5] 景福宮の東にあり、世界遺産の昌徳宮と景福宮との間に位置。高い身分の両班や王族、権力のある高位階級の住居地だった。現在は、韓国の伝統家屋である韓屋が集中している。

[6] 慶尚南道河東郡、智異山の麓にある村。

[7] 2002年韓国で放送されたKBSの月火ドラマ。四季シリーズのひとつ。ユン・ソクホ監督。ペ・ヨンジュン、チェ・ジウ主演。2003年4月に日本NHKで放送。略して冬ソナ。韓流ブームのきっかけとなったドラマ。

[8] 大韓民国江原道春川市の市内と南怡島が代表的な撮影地。ほかに、主人公が住んでいた家や通学した道なども撮影地として観光客が訪れている。

[9] 2006年韓国KBSドラマ。ユン・ソクホ監督の四季シリーズの最終作品。

[10] 2003年韓国KBSドラマ。ユン・ソクホ監督の四季シリーズの3作目。

[11] 2000年韓国KBSドラマ。ユン・ソクホ監督の四季シリーズの1作目。ソン・ヘギョ、ソン・スンホン主演。

[12] 原題「大長今（대장금）」。2003年韓国MBC製作の歴史ドラマ。イ・ビョンフン演出。イ・ヨンエ主演。2004年NHK-BS2放送。

[13] 原題「태왕사신기太王四神記)」。2007年韓国MBC製作のファンタジー時代劇ドラマ。キム・ジョンハク演出。ペ・ヨンジュン主演。2008年NHK放送。宝塚で舞台化。愛称はテサギ（太四記)。

[14] 大長今テーマパークは2004年12月京畿道揚州の揚州MBC文化村に開場。しかし、撮影のための施設であり仮設建築ということもあり、老朽化と破損などがみられ観光の安全性を確保できないと2012年1月に閉鎖。

http://www.imbc.com/entertain/mbcticket/mbcplay/2004/daejanggumtheme_jp/

また、太王四神記は済州島で撮影され、200億ウォンかけてつくった撮影セットを2007年9月に一般公開した。太王四神記セット場、もしくはパークサザンランドと呼ばれる。セット全体が町になっている。

http://www.parksouthernland.co.kr/

[15] 2005年韓国SBS製作の歴史ドラマ。日本では2006年KNTVで放送。もともと薯童謡とは三国遺事の武王の説話の中の童謡をいう。朝鮮時代のドラマが多いなか、初めて百済を舞台にしたドラマとして注目を集めた。

[16] 「ファラン」と読む。もともとは新羅の青年組織。軍事組織であるという説もあり、現在では「花郎精神」の事君以忠・事親以孝・交友以信・臨戦無退・殺生有擇の教えのもと、特に臨

戦無退の精神をいただき、韓国陸軍にも「花郎」に関した名前が多く残っている。

[17] 済州島西帰浦市にある緑茶迷路公園。入り口に「緑茶テーマパーク」「チャンスンテーマパーク」と書いてある。

[18] 木や石で人をかたどり、村の入り口などに立て、村の平和などを祈るもの。日本の道祖神と同じ役割をするものもある。「天下大将軍」「地下女将軍」と書かれているものが多い。

[19] 李相日氏談。成均館大学名誉教授。ダウン文化芸術企画研究所所長。

[20] 三陟市遠徳邑葛南里 삼척시 원덕읍 갈남리 に位置。

[21] 2005年韓国で公開されたペ・ヨンジュン主演の映画。相手役はソン・イェジン。韓国名「외출 (外出)」2005年公開。

[22] http://jap.samcheok.go.kr/03Tour/05_01.asp

[23] 海神堂公園にある説明文そのまま。

[24] 倉石あつ子「韓国における男根崇拝」『長野県民俗の会通信』220号 2010年。

[25] 이종철, 김종대, 황보명 [성, 숭배와 금기의 문화] 대원사 1997
(イ・ジョンチョル、キム・ジョンテ、ファン・ボミョン 『性、崇拝と禁 忌の文化』 大円社 1997)

[26] 正月15日に男根彫り大会が行われる。もともと奉納するための木製の男根が彫られていたのだが、現在では彫刻家たちが集まり、男根の彫刻を彫る。

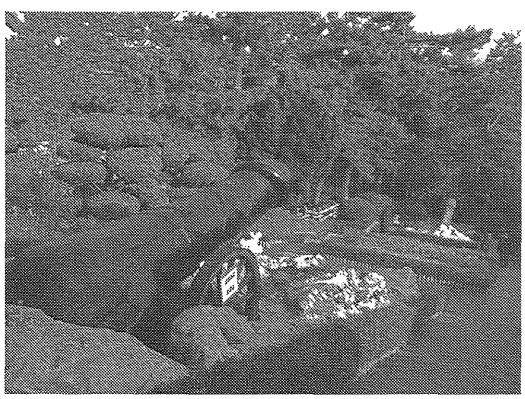
[27] http://www.jejuloveland.com/index.php 済州市連洞680-26

[28] 日本ではかなまら祭りの中で、男根をご神体として神輿を担いで練り歩くイベントがある。

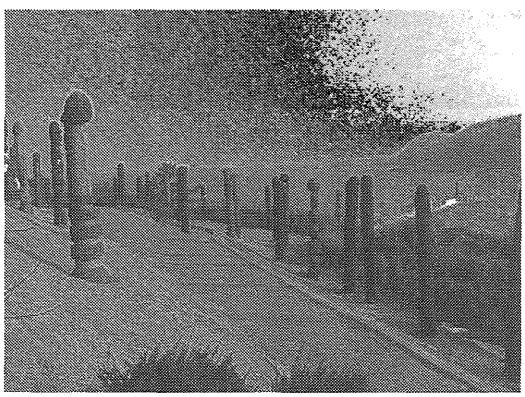
[29] Vigeland Sculpture Park ノルウェー首都オスロの北西3キロにある公園。ノルウェーの彫刻家グスタフ・ヴェルゲンの彫刻だけがおかれている。

[30] http://www.puppetryofthepenis.com/

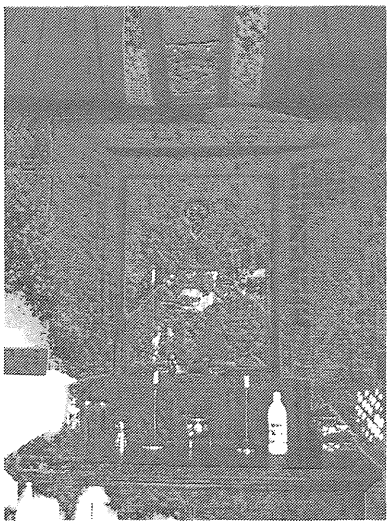
写真資料



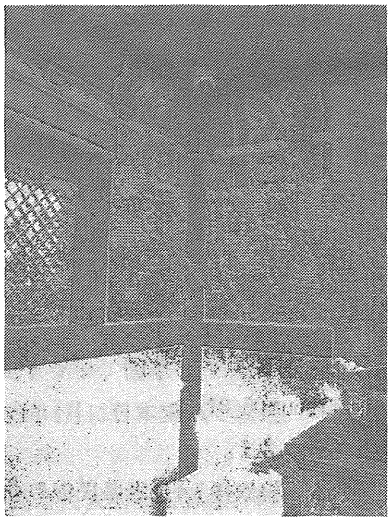
上下に動く巨大シシオドシ型男根



公園の中の道

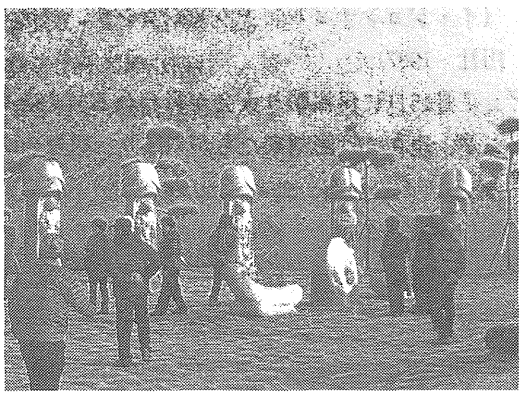


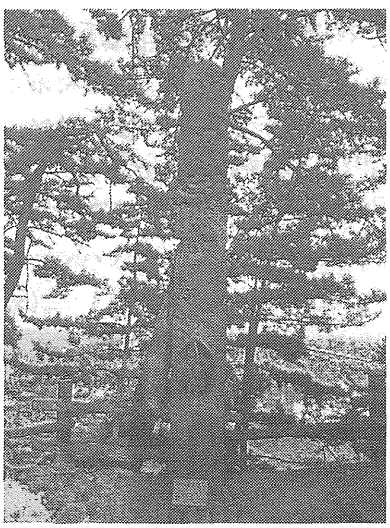
海娘堂内部



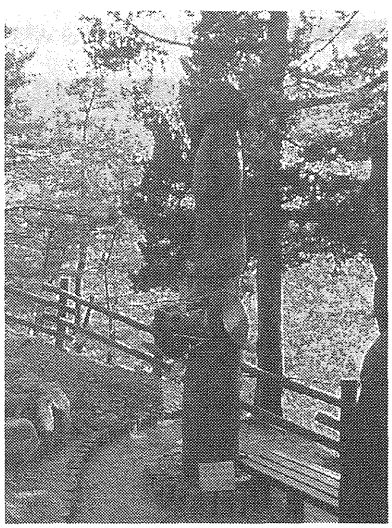
海娘堂内。木製の男根が吊るされている

公園の中の道十二支の男根。十二支の動物が男根の茎に立っている

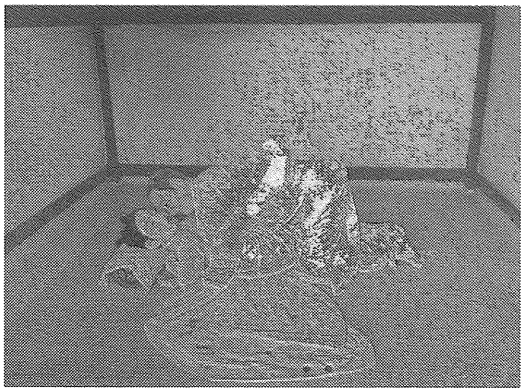




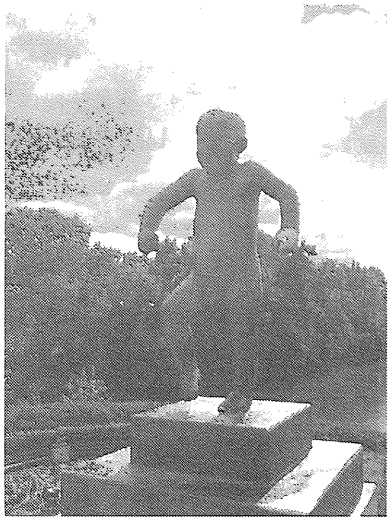
頭は男根、体は女性の彫刻



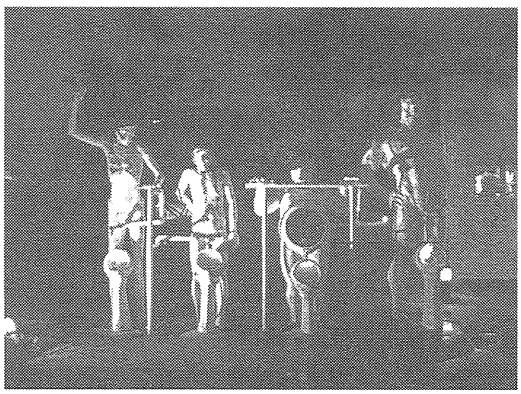
ベンチの横に立てられた男根



性交中の男女の人形



オスロのヴェルゲン公園にある銅像。通称「怒りん坊」



済州島ラブランドの蛇口

済州島ラブランドにある像